



発行責任者 亀岡市立病院広報委員会

〒621-8585

京都府亀岡市篠町篠野田 1-1

TEL 0771-25-7313

FAX 0771-25-7312

<http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/>

病院理念

- 急性期医療を中心とした適切かつ良質な医療を提供します。
- 患者さまの権利を尊重し、理解と納得に基づいた患者さま中心の医療を行います。
- 地域医療機関と連携し、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み地域医療の向上に貢献します。
- 公共性と経済性を考慮し、市民の理解と信頼を得られる透明性のある病院運営を行います。

CONTENTS

ごあいさつ	1
整形外科診療内容の紹介	2・3
手術室・救急室の紹介	4
リハビリテーション科より	4
市立病院に質問 医療費について	5
病診連携懇話会開催報告	5
トピックス 院内研修実施のご報告他	6
病院職員紹介	6
地域連携医のご紹介	7
<small>医療法人よしたけ医院・医療法人さとう医院</small>	
編集後記	8
アクセスマップ	8



ごあいさつ

9月になり、朝夕の暑さが幾分すずしくなってきました。7月、8月のまさに酷暑という言葉でしか表現出来ない、今年の夏の暑い日々を、体調を崩されることなく、亀岡市民の皆様には、ご無事にすごされましたでしょうか。

本年1月1日、運動器疾患センターが亀岡市立病院に新たに開設され、初代センター長として勤務させて頂いております。当センターにおいては、骨、関節、筋肉、神経などの体を動かすために必要な器官、つまり運動器に不具合の生じた患者様を対象として、整形外科外来にて診察と治療を行っております。具体的には、薬物療法、運動療法または装具療法を駆使して、手術などの治療が必要になる前段階の患者様の、日常生活動作の改善や向上を目指しております。27年余りの整形外科医としての経験や、直近の3年間、京都府立医科大学整形外科の専門外来（骨粗鬆症担当）において経験したことを、皆様の健康維持に生かせるよう努力したいと考え、着任いたしました。

この1月から半年余りの勤務からは、ここ亀岡市においても、やはり高齢化や骨粗鬆症に伴う、運動器の不具合に苦しんでいる患者様が多いことを経験致しました。これから高齢化が加速度的に進む日本の、高齢社会のモデルケースとなりえる、この亀岡市に奉職させていただいたご縁を大切に、亀岡市民の皆様の健康寿命を少しでも延ばせるお手伝いをさせて頂くことが、当センターの使命だとあらためて考えております。

今後とも、よろしくお願い申し上げます。



亀岡市立病院運動器疾患センター
センター長 辻 吉 郎

整形外科診療内容の紹介

整形外科とは：

整形外科は、全身の骨・軟骨組織や筋肉、腱、靭帯、神経などの軟部組織および関節に生じた痛みや機能障害などを診断し、治療を行っています。生まれたての小児から100歳を越えられた超高齢者にとるまでの幅広い年齢層を対象とし、さらに扱う疾患も外傷などの急性期疾患、徐々に進行する関節痛などの慢性期疾患、先天的な機能障害などの小児疾患、骨粗鬆症などの代謝性疾患、リウマチなどの自己免疫性疾患および四肢に発生した骨軟部腫瘍などきわめて多岐に渡ります。それぞれの疾患に対して、消炎鎮痛剤、ブロック注射およびリハビリテーションなどの保存療法と、機能障害回復を目的とした手術療法と術後リハビリテーションがあります。近年では、この整形外科が扱う分野を総称して「運動器」と呼ぶようになっており、世界保健機関（WHO）などが中心となって2000年から始まった「運動器の10年」世界運動の一環として、日本でも様々な取り組みがなされてきています。超高齢化社会を迎える日本においては、「健康寿命（日常生活において介護を必要とせず、自立して元気に過ごせる期間）」をいかに伸ばすかが問題となっており、「運動器」の重要性への理解が深まるにつれて、この「運動器」を治療する整形外科の役割と責任が大きくなってきています。

当院整形外科の現状：

当院は整形外科常勤医が不在の時期がありましたが、2007年5月から細川元男部長が赴任し、2008年10月からは坂部智哉（筆者）が赴任し、整形外科診療にあたっています。また、運動器疾患の診断・治療をさらに発展させるために、京都府下の他病院にさきがけて2010年1月に「運動器疾患センター」を開設し、辻吉郎センター長が着任しております。よって、現在は常勤医3人体制で、外傷などの急性期疾患を中心とした、適切かつ良質な整形外科医療の提供を目指して日々奮闘しております。当院整形外科の診療実績ですが、外来患者数は2007年度において、月平均936.6人（年間11,239人）でしたが、年々増加傾向であり、

2009年度においては月平均1,397.7人（年間16,772人）もの患者様に受診していただいております（図1）。2010年7月現在では月平均1,524.5人とさらに増加しており、ご紹介をいただいている近隣の開業医の先生方を始めとして、亀岡市民の方々からの信頼を徐々に得てきたのではないかと考えております。また、手術症例件数においても年々増加傾向にあり、筆者が赴任してきた2008年10月から2010年8月現在で500例を数えます（図2）。手術症例内訳は、骨折を始めとした外傷手術が271例（54.3%）と最も多くなっています。次いで、患者様の体にやさしい低侵襲手術を可能な限り行うことを目指して、当院では膝関節や肩関節に対して関節鏡を用いた手術を積極的に行っており、啓蒙活動のおかげもあって徐々に症例数も増加しております。

図1 外来受診数（月平均）

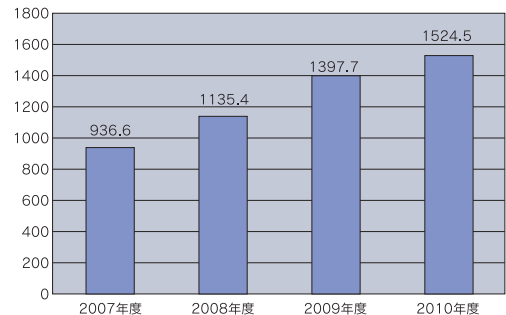
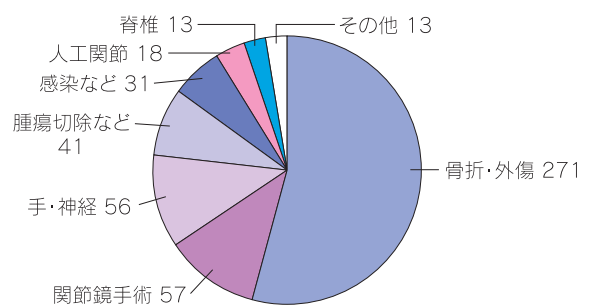


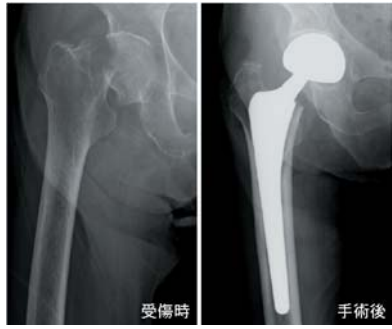
図2 手術症例内訳 2008年10月—2010年8月



運動器疾患別の診断と治療：

1. 骨折・外傷：当院整形外科では可能な限り救急を含めた外傷に対応しています。特に高齢化社会を反映して、大腿骨頸部骨折（図3）、大腿骨転子部骨折（図4）および脊椎圧迫骨折などのいわゆる高齢者骨折が増加傾向にあります。早期手術と早期術後リハビリテーションが術後の歩行能力

図3



や生命予後に大きく影響するため、当院では超高齢者や高リスク症例であっても、循環器科、麻酔科および手術室スタッフと連携し、可能な限り早期の手術を積極的に行っています。また、当院には経験豊富な理学療法士が3人常勤しているため、綿密なりハビリテーション計画を策定後、受傷前の歩行能力へ回復していただくために、早期から

図4



毎日術後リハビリテーションを行っています。さらに、医師、理学療法士および病棟看護師によるリハビリテーションカンファレンスを定期的に行い、患者様ごとの術後機能評価や問題点を整理して、適切なリハビリテーションの実施と安全で安楽な入院生活を提供できるように努めています。

2. 膝関節障害：スポーツ外傷による膝関節靭帯損傷や半月板損傷ばかりでなく、壮年期における膝関節痛の原因として最も多い半月板変性断裂に対しても、MRIを用いた正確な診断を行い（図5）、関節鏡を用いた低侵襲手術を積極的に行っています（図6）。特に、半月板変性断裂の手術は手術時間が約30分で、入院期間も1週間未満であるため、多忙な壮年期の患者様にとっては、効果的で満足度の高い手術です。しかしながら、この手術が適応とならない進行した膝関節障害（変形性膝関節症）の患者様に対しては、ヒアルロン酸の関節内注射やリハビリテーションによる保存療法を行います。疼痛の軽減しない場合は人工関節手術を行っております。人工関節手術はきわめて厳重な清潔環境下での手術が必須ですが、当院では清潔度の高いクリーンルームを完備しており、経験豊富な麻酔科医および優秀な手術室スタッフと協力し、安全で適切な人工関節手術が可能です。



図5 半月板変性断裂（矢印）

3. 肩関節障害：中高年の肩関節痛の主な原因は肩関節周囲炎（いわゆる五十肩）ですが、肩を上げる際に引っかかり感を伴った疼痛や強い夜間痛が持続するような場合は肩腱板断裂の可能性があります。肩腱板断裂を生じた場合、断裂部が治癒することはなく、徐々に断裂が大きくなり肩関節機能障害が強くなってきます。当院では持続する肩関節痛に対しても積極的にMRIを用いた診断を行い、肩腱板断裂がある患者様で症状が強い場合は手術療法を行っています。近年では、高度な技術を要する関節鏡を用いた手術が主流となりつつあり、当院でも適応症例に対しては関節鏡下での腱板縫合術を行っております。

4. 小児整形外科：小児整形外科は専門とする整形外科医が限られており、高度な知識と技術が要求される分野です。細川部長はこの小児整形外科を専門としており、月曜日午後に特殊外来を開設しています。股関節の動きに左右差がある、足の変形があり転倒しやすい、足の長さや左右差がある場合などは小児特有の障害が隠れている可能性がありますので注意が必要です。多くの場合、装具療法で治療を行いますが、手術が必要となる場合もあります。

5. 骨・軟部腫瘍：骨や軟部組織に発生する腫瘍は比較的にまれなため、診断においては専門的な知識と、正確な画像診断能力を要します。ほとん



図6 関節鏡手術

どの場合が良性ですが、大きなものや疼痛を伴う場合は悪性の可能性がありますので、積極的な画像検査および組織検査が必要です。良性であっても手術が必要となる場合もあるため、腫瘍を放置せずに整形外科（月・水曜日 担当 坂部）を受診されることをお勧めします。

以上、まだまだ整形外科疾患は多岐に渡りますが、どんな疾患に対しても正確な診断と最新の治療を提供できるように努力していく所存ですので、今後よろしくお願いいたします。

（整形外科医長 坂部 智哉）

手術室・救急室の紹介

当院手術室は、外科・整形外科・眼科・皮膚科の手術を行っています。

外科では開腹手術、内視鏡手術、痔の手術等を、整形外科では骨折の手術、脊椎の手術、人工関節の手術等を、眼科では白内障に対する人工レンズ挿入の手術を中心に行っています。

手術室の看護師は、患者様により安全に、より安心して手術を受けていただけるよう、手術前患者訪



問と手術後患者訪問を行っています。手術前患者訪問は、手術前に患者様のところに伺い、その情報をもとに手術中の看護に役立てます。また手術に対する不安なお気持ちを少しでも和らげていただければと願って手術室案内をしています。手術後患者訪問では、手術室や手術室看護師に対してのご要望などを伺っています。

救急室は、救急受診希望の患者様全てに全科対応ではお応えできませんが、内科・外科・整形外科・小児科の専門医が日・当直の場合、利用していただいています。救急車で来院される患者様や自家用車や徒歩で来られる患者様、さまざまですが、受診前に電話で病状などを伝えていただくとより早く対応ができます。

受診された患者様やご家族から、「ありがとう」と言葉をいただける手術室・救急室看護師を目指して努力していきたいと考えています。

(看護部主任看護師(手術室) 谷口 智宏)

リハビリテーション科より

当院では、超音波治療器(US-750)を導入しています。

超音波治療器には2つの効果があります。1つは温熱効果、もう1つはマイクロマッサー効果です。温熱効果は、硬縮した筋肉や腱を温めて伸ばしやすくしたり、痛みを鎮めたり、神経線維に作用して筋の緊張を緩めたりすることを目的に使われます。

マイクロマッサー効果は、組織の微小循環を改善して腫れを鎮めたり、細胞透過性を高めて関節に溜まった水分を吸収させたりすることができます。

対象として、当院では肩関節周囲炎(いわゆる五十肩)、肩腱板断裂、



肩峰下滑液包炎、膝半月板損傷、術後の腫脹および鎮痛などに利用しています。多くはアスリートのコンディションづくりに利用されているようですが、すべてに超音波治療を行うのではなく、原因を見極めることが大切で、超音波治療を上手く組み合わせることが効果的です。

治療時間は、1部位3分と短時間で変化がみられます。

(リハビリテーション科長 織田 史雄)



医療費

について

Q&A

市立病院に質問



抗がん剤治療が必要となりました。お薬が高額と聞いています。何か医療費の負担を軽減できる制度はありますか？
(Tさん)

「治療が必要だけれども、どれくらいの医療費がかかるのか心配で・・・」というご相談はよくお受けします。

70歳未満の方の入院の医療費は、以前は1ヶ月で支払った窓口負担が自己負担限度額を超えた場合、手続きをすればその超えた分が高額療養費として払い戻されていました。しかし現在は、入院時には、それぞれ加入されている保険者（国民健康保険や協会けんぽ等）、あるいは、勤務先で『限度額適用認定証』の手続きをしていただくと、それぞれの所得に応じた自己負担限度額までの負担で済むこととなります。（保険者により違う場合もあります。）

しかし、外来の場合はこの限度額までの支払いとはならず、一旦窓口で自己負担分の医療費を全額お支払い頂き、領収書を持参の上、1ヶ月ごとに各保

険者や勤務先で、払い戻しの手続きをして頂く必要があります。（院外薬局での一部負担金は処方箋を交付した医療機関と合算されます。）

※医療費には入院時食事療養費や差額ベッド代、保険給付外分などは含まれません。

所得区分	限度額
上位所得者(A)	150,000円+(医療費-500,000円)×1%
一般(B)	80,100円+(医療費-267,000円)×1%
低所得者(C)	35,400円

◎70歳以上の前期高齢者、後期高齢者医療対象者又は、65歳以上で老人医療受給者の方は別の限度額の制度があります。

詳しくは、加入されている健康保険の保険者でご相談ください。

(回答者 医療ソーシャルワーカー 小松 尚子)

第9回 病診連携懇話会を開催しました

病診連携懇話会は、地域の病院や診療所の先生方および関係機関の皆様方と顔の見える信頼関係を築くこと、また、当院でどのような医療を実践できるか、どのような特徴のある病院づくりが可能であるかということを知っていただくことを目的に開催しています。

第1回の平成17年12月以降、年に2回開催し、今年の7月には第9回を迎えることが出来ました。今回は、症例報告としまして、消化器科の豊田医師

から、「約5年の経過で浸潤癌に進行した大腸微小腺腫の2症例」 外科の阿辻医師からは、「最近の痔の治療」 整形外科の細川医師からは、「当院の整形外科の現状」の講演をし、さらに南丹保健所の横田所長からは、「亀岡市における外傷発生動向と予防について」のご講演をいただきました。

ご出席いただいた先生方からも多数のご質問・ご意見をいただき、貴重な情報交換の場になったと思っております。



今後も地域で一体となり、市民にとって安心できるような、より良い医療を提供していきたいと考えています。

院内研修を実施しました

当院では、去る7月15日に院内全職員を対象として、医療安全管理研修会を開催しました。講師には元京都大学医学部附属病院看護師長の湯浅 伸子さんをお迎えし、「京大病院エタノール誤注入事故の経験から」という演題で、実際に起きた医療事故の経験から得た日常業務で気を付けなければならない点などについて学びました。



医療安全管理研修



フィジカルアセスメント研修

また、6月23日から25日までの間及び8月11日から13日までの間に、看護職員を対象として、呼吸音聴取の研修を開催しました。この研修では、コンピューターと連動して様々な症例の胸の音などをつくりだせる最新の人形を使い、複数症例の呼吸音

を聴診し、音の違いを聴きわけてスタッフ間で情報を正確に共有できるよう研修を行いました。

今後も患者様に適切かつ良質な医療及び看護を提供できるよう、職員一丸となって日々研鑽に努めて参りたいと思います。

職員の教育セミナー修了及び講演発表のご報告

今年の5月23日に手術室の橋本恵理子看護師がJNTECプロバイダーコースを修了しました。

JNTECとは救急室での外傷初期治療の標準化によってPTD（防ぎえた外傷死）を減らすことを目的に日本救急看護学会が主催している教育セミナーです。

当院は規模が小さく、救急体制はまだ必ずしも十分といえない部分もありますが、昨年度は462件の救急搬送を受け入れました。このような看護師の取り組みが、よりの確な救急治療につながっていくよ

う努力をしてまいりたいと思います。

また、7月には手術室の井上瑞穂看護師が第10回Team Building Seminarで講演を致しました。これは内視鏡手術時のチーム医療の効率化をテーマとしたセミナーで、昨年度の内視鏡外科学会のシンポジウムでの彼女の発表が高く評価されたことから、講演依頼がきたもので、全国の手術部看護師や医師に「鏡視下手術における当院の工夫と試み」を講演し好評を博しました。

病院職員紹介



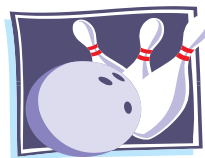
放射線技術科
主任診療放射線技師
和久 隆

ボウリングはオモシロイ

私は今、ボウリングに夢中です。皆さんも一度はされた事がある身近なスポーツだと思います。

ここまで夢中になったキッカケは、小6の長男が二年ほど前、友達に子育てパスポートを提示すれば親子で貸し靴代が無料になると聞き、毎週末ボウリングへ行くよ

うになったことでした。最初は二人で遊び半分、楽しくやっていたのがお互いより高いスコアを出したいと欲が出て、今では二人ともマイボールを持ち、息子は月に2～3回ボウリングスクールへ通っています。スクール後は一緒にボウリングをします（多い時は一人10ゲームほど）。ボウリングは老若男女、子どもから大人まで楽しめるスポーツです。日頃の運動不足解消に皆さんもボウリング場へ足を運んでみてはいかがでしょうか？



当院では、地域の医療機関と連携して、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み、地域医療の向上に貢献することを病院の基本理念として、患者さま中心の医療を展開しています。そこで、本誌において、地域の連携医療機関を順次紹介させていただきます。

医療法人よしたけ医院

院長：芳竹 敏郎

住 所：亀岡市篠町柏原町頭43


Tel：23-7022

標榜科目：胃腸科、内科、整形外科、外科

診療時間：午前9:00～12:00

第2、第4土曜日および日祝日休診

院長より一言



9月1日が本院の開業記念日で、もう丸27年の月日が経ちました。南丹病院の外科医が開業前の経歴ですが、開業当初、小児科も少なく、子供さんの診療に随分携わってきた思い出がありますが、その子供達もすっかり成人されました。いつの間にか私を長老と呼ぶ人がでてきました。まだまだそう呼ばれるには早いと思いつつもいい歳になったものです。数年前に一件のトラブル（破傷風診療にまつわる出来事）に遭遇しましたが、それ以外には大過なく過ごす事ができました。しかし最近の診療スタイルは随分と変わって来た様に思われます。医師としての裁量権の衰退は眼を覆うばかりで、何事にも心して対処しなければと自分に言い聞かせている昨今です。

私事になりますが、昨年の暮れ思いもかけない病魔にみまわれ、胃を全部摘出する羽目になりました。今では養生をかねて午前中のみ診療で日々を送っています。

亀岡市立病院は、私の医院からも比較的近く、診療は基より各種検査など、殊のほかお世話になっています。有難い事と思っています。更に耳鼻咽喉科の開設と皮膚科、泌尿器科の更なる充実が得られたらもっとうれしい限りです。市立病院のますますの発展を念願しています。



医療法人さとう医院

院長：佐藤 譲

住 所：亀岡市千代川町高野林西ノ畑27


Tel：25-8851

標榜科目：内科、外科、婦人科、胃腸科
在宅診療（24時間連携体制）

診療時間：午前9:00～12:00、午後5:00～7:30

木・土曜日の午後および日祝日休診

院長より一言



地域医療の重要性を体験し、平成11年12月、現地に医院を開設、診療を開始しました。立地的には国道9号線に面しており、地元の方々のみならず近隣の市町村や通りがかりの方々が受診されておられます。

患者さんの訴えは器質的疾患や精神・神経的な病気まで様々で、身体各所に及んでおり、内科的・外科的な種々の対応処置が求められます。手に負えない重症や外傷もあり、入院の上、精査・画像診断・治療などを基幹病院にお願いする事も多々あります。

患者様やご家族のご希望、交通の便、病院のご都合などに従って転院していただき、急場を凌ぐこともしばしばです。このたび亀岡市立病院の登録医になる機会をいただき、心強い味方を得た思いです。今後とも相互の連携強化を目指して取り組みたいと思います。当院には新たに専門医2名が加わりましたので、消化器内科及び開業以来取り組んでおります在宅医療を、いっそう充実させたいと思っております。

亀岡市立病院には、今後益々お世話になる機会が増えることと思いますが、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。



今年は暑い夏でしたが、ようやく風や虫の鳴く声に秋を感じられるようになりました。さて、4号目となりました『桔梗』ですが、今号は運動器疾患関連の紹介をメインディッシュに、他盛り沢山の内容となっております。私は普段、病棟で勤務している看護師ですが、広報委員会委員として編集後記を担当させて頂くことになり、何を書こうか迷いましたが、亀岡市立病院の一押し自慢をしたいと思います。当院の各病室には大きな窓があり、4人部屋でもすべて窓際にベッドが設置されています。私はその窓から見える山や空の景色が大好きです。療養には環境が大きく影響し、新鮮な空気と水、光が必要であると我らが先輩ナイチンゲールも唱えています。病室から緑が見える病院はたくさんありそうで実は少ないのではないのでしょうか？また環境だけでなく、医療、看護サービスもここへ来て良かったと思ってもらえるような病院づくりを目指していますので今後ともよろしくお願い致します。

広報委員会委員 原野 美由紀（看護師）

広報委員会からのお知らせ

本誌『桔梗』の表紙や挿絵に掲載させて頂く写真やイラストを募集させていただきます。テーマの規定はありません。みなさまより多数のご応募を心よりお待ちしております。採用、不採用に関わらず、写真やイラスト、画像データ等をご返却できませんのであらかじめご了承下さい。詳細につきましては、下記担当者までお問い合わせをお願い申し上げます。

【担当者】亀岡市立病院 広報委員会事務局(担当 岡田)



JR馬堀駅から徒歩約5分／京都縦貫道篠インターから車で約5分／駐車(輪)場有

亀岡市立病院

〒621-8585 京都府亀岡市篠町篠野田1-1
 TEL 0771-25-7313 FAX 0771-25-7312
<http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/access/index.html>